

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎・基本の定着が十分でなく、個に応じた学習の進め方について学校と家庭との間で明確なイメージがもてていない。 <指導上の課題> 苦手な教科・領域については、児童の学習意欲を引き出すことが難しい。反復や習熟の時間、振り返りの時間が十分に確保されていない。	⇒ ・朝の学習タイムの有効活用 ・「家庭学習の手引き」 ・毎時間の学習ルーティンの確立 ・「ドリルパーク」などICTの活用
思考・判断・表現	<学習上の課題> 苦手意識から、自ら考え発表する意欲がもてていない。理由や根拠を明らかにして、自分の考えを表現することに課題がある。 <指導上の課題> 児童が意欲をもてる学習課題の設定が十分でない。	⇒ ・読書や自然体験を主とし、オクリンクプラスなどを活用した協働的な学びから、自分なりの思いや考えをもたせられるようにする。 ・答えを求めるだけでなく、「なぜ」そうなるか考える機会を設ける。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	【国語】文中の説明と、それが示す図を結びつける質問には、平均以上の正解があった。また、登場人物の発言の内容を問う質問も結果が良かった。児童にとって、その場面を想像できることが理解を助けるようだ。 【算数】棒グラフから実数を読み取ったり、多様な図形の中から五角形を選んだりすることが得意である。具体物の操作に慣れていると考えられる。 【理科】玉土の粒の大きさによって水が染み込む時間が変わる事象をしっかりと理解できていた。一方、磁石の性質について問う問題は、知識はあっても正答を選ぶことができていない印象である。	
思考・判断・表現	【国語】話し合いの場面で、一方の発言を受けてもう一方が何と答えるか、児童自身が考える問題は苦手である。気持ちや考えを表現すること自体が難しいようだ。 【算数】分数を数直線上に表したり、ある事象を表現するのに適したグラフを選んだりする問題が苦手であった。容易にイメージできない事柄を、さらに数量関係で捉えなおすことに、難しさがあるようだ。 【理科】玉土に水が染み込む問題については、イメージは掴めていても、言語化できていないようだ。また、ある課題の解決方法について自らの考えを書くことも苦手である。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」など、児童の意欲を引き出しやすい学習活動については、比較的良好に実施できていた。一方で、家庭の協力を得て課題に確実に取り組むことや、朝の学習タイムで学校全体で統一した活動を行うことは、まだまだ課題である。ただし、普段の授業に対する児童および教員の集中力は上がっており、目の前の授業を大切にやる姿勢が生まれつつある。	・学校課題研究として「基礎・基本の定着」を設定した。今後は校内で研究授業を行ったり、専門部として「授業以外で基礎・基本を定着させるための方策」を考えたりして、全校を挙げて課題に取り組む。
思考・判断・表現	C	学校図書館の利用率が高まり、児童が借りる本の数が増えている。本校の豊かな緑を利用して、自然体験活動も活発であり、学びの土台ができていく。一方、児童の関心を高められる課題設定や単元計画など、カリキュラム・マネジメントは個々の教員に委ねられている状況である。	・教科担任制であることのメリットを生かし、教員が、それぞれの担当の教科で、カリキュラム・マネジメントを進める。特に、児童が自分の考えを発する機会を増やしていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)